

2023年2月21日

広島市教育委員会
教育長 糸山 隆 様

全広島教職員組合	執行委員長 小林 克巳
広島市教職員組合（全教）	執行委員長 藤中 茂
広島県原爆被害者団体協議会	理事長 佐久間 邦彦
原水爆禁止広島県協議会	代表理事 高橋 信雄
広島教育研究所	所長 佐藤 清隆
広島の文化の未来を考える教職員の会	代表 藤川 晴美

「平和教育プログラム」教材から「はだしのゲン」削除決定の撤回を求めます

広島市「平和教育プログラム」の見直しにあたって、これまで採用されていた漫画「はだしのゲン」を教材から削除することが明らかになりました。

広島市の平和教育の目標の実現のため、「はだしのゲン」が果たしてきた役割は多大なものがあります。広島市教育委員会がかかげる「継承と発信という平和学習の目的」に照らしてみても優れた教材であることは言うまでもありません。そのことは、「はだしのゲン」を読み、心を動かされてきた世界中の人々の努力で、これまで英語版をはじめ 24 カ国に翻訳され、世界中に原爆や戦争の悲惨さが伝えられてきたことから明らかです。

この度の報道を聞き、「子どもの頃に読んで心に残っている」「この漫画で原爆の恐ろしさや平和の大切さを知った」という声とともに、この教材が削除されることに「非常に残念である」という声が全国各地から寄せられています。また、全国から広島市平和記念公園に多くの修学旅行生が来ています。その多くの小・中・高校生は、事前学習として「はだしのゲン」を教材にして学んできます。この事実を見ても、この作品の持つ役割は大きいものがあります。

広島市教育委員会は、削除の理由として「被爆の実態に迫りにくい」「児童の生活実態に合わない」「誤解を与える恐れがある」などをあげていますが、どの理由も納得できるものではありません。たとえ、指摘されるような懸念があるとしても、取り上げ方・場面を変えることや取り上げる学年を変えることで十分対応できるものだと考えます。はじめから削除ありきですすめられ、教材を残す論議や努力がどれだけなされたのかも疑問です。戦争と核の恐れが迫っている今だからこそ、「はだしのゲン」の作品の持つメッセージを幅広い世代・地域に伝える時だと考えます。

以上のような理由から、今回の削除決定を撤回し、平和教育の充実のために、漫画「はだしのゲン」が生かされるよう再検討を求めます。当面以下のことについての検討を要請します。

記

1. 今回の削除決定を撤回し、平和教育の充実のために、漫画「はだしのゲン」が学校現場で取り上げられるよう再検討を求めます。
2. なぜ、このような決定になったのか十分な説明がなされていません。説明も含めて懇談の場を早急に設定することを求めます。
3. 学校現場に対しては、平和教材としての「はだしのゲン」の意義を確認し、別冊の資料を作成するなどして、補助教材として活用する場を設けるよう検討してください。